～わたしのスポーツストーリー～　第2回（不定期連載）

スポーツを通じて感じた喜びや達成感、心に残った出来事など、スポーツにまつわるお話を募集しています。ここでは、投稿された作品をご紹介します。

剣道六十年

小学校3年生の夏休み初日、母に警察署へ連れて行かれ剣道を始めました。私は体力もなく気も弱いうえに運動神経が悪く、小学校の運動会が一番嫌でした。剣道も上達せず、学生時代は嫌々稽古をしていました。それでも止めずに今まで続けられたのは、剣道の先生に「強くならなくてもいい。正しい剣道をせよ。」「剣道の大家には不器用な人が多い。」と言われたことや、「常に正々堂々」、「平常心」などの教えと稽古が終わってからの爽快感が好きだったからです。

本当に稽古に取り組んだのは社会人になってからです。剣道の稽古で得られた前向きな心の強さや、職場だけに限らず剣道を通じて得られた幅広い分野の人との交流が仕事を続けるうえで心の支えになりました。

5年前に退職しましたが、社会人になってから50年間続けてきた、ほぼ毎朝の稽古や休日の地元での稽古は今でも続けております。お陰様で退職して今も元気に楽しく毎日を送っています。

（南栗橋・喜多俊清さん）

◆「あなたのスポーツストーリー」引き続き募集しています！

住所・氏名・電話番号・Eメールアドレス（ある方）・匿名の希望の有無・匿名希望の場合のペンネームを添え、400字程度にまとめたストーリーを、直接または郵送・Eメールで、スポーツ振興課スポーツ企画係（〒346-0033　下清久500-1／Eメールsportsshinko@city.kuki.lg.jp）へお送りください。（様式自由）

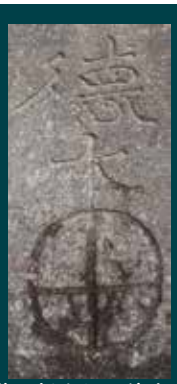
※投稿作品の著作権は、久喜市に帰属します。

連載　久喜歴史だより（第112回）

福寿院の徳本名号塔

栗橋宿の中にある福寿院には、丸みを帯びた独特な書体で「南無阿弥陀仏」と刻まれた石塔があります。この文字は、江戸時代後期に、日本各地に足を運び、念仏を伝え歩いたことで知られる徳本上人が書いたものです。

徳本上人は宝暦8年（1758）に紀伊国（現在の和歌山県）に生まれ、27歳で出家をして各地で修業しました。その後、出身地の関西地方をはじめ、関東・中部地方でも人々に教えを説いて回り、文政元年（1818）に江戸で亡くなりました。徳本上人は藩主から庶民まで多くの人々から敬われ、上人が声高に念仏を唱える様子に倣った「徳本念仏」が流行しました。その人気ぶりは、上人のもとにあまりに多くの人が集まったため、急遽やぐらを作りその上から説法したこともあったほどだそうです。

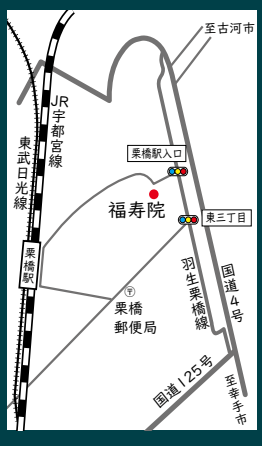


名号塔に刻まれた徳本の名前（上部）と花押（下部）

徳本名号塔

徳本上人が訪れた地域には、その独特の書体の名号「南無阿弥陀仏」が刻まれた石塔が数多く残されています。これは徳本名号塔と呼ばれます。徳本名号塔は全国で1500点以上あり、埼玉県内でも40点以上見つかっています。

福寿院の徳本名号塔の正面には、名号や「徳本」の名前、花押が刻まれています。この名号塔が建てられたのは、上人が亡くなった後の文政4年（1821）です。このことから、地元の人々が上人の死を悼んで建立したものなのかもしれません。



問合せ　文化財保護課文化財・歴史資料係（内線383）